

① さくらさんは、「自己肯定感」の在り方について考えるために、次の文章を読みました。各問いに答えなさい。

昨今、「自己肯定感」という言葉が溢れている。「自己肯定感を高める食事」とか「自己肯定感を高めるフアッション」などを見聞きしたこともある。Ⅰ、ここで問題なのは、自己肯定感が高いことが本当にいいことなんでしょうかということだ。Ⅱ自己肯定感が高める、低めるという、たぐいのものなんでしょうか。自己肯定感という一般的なイメージとしては私はできるので、すごい*業績を上げているぞ、何でもできる万能だ。」という気持ちのことだと思われる。自分が思ったとおりにことがうまく運べば肯定感が増すし、*優越感を得ることになる。できなければ*劣等感につながる。

これは結局、自分と他人を比べることで得られる感覚なのだ。③きじゅんとなっている他人よりも自分が上になれば自己肯定感が増す。あるいは、過去の自分よりもより良い自分になることや、より高みを目指さなければならぬといったことが*強迫観念のように求められている。もちろん*ネガティブよりはいいけど、常に向上していかなければならないのは少しプレッシャーではないだろうか。

本来の自己肯定感の定義は「ありのままの自分を受け入れよう、それを認めよう。」ということだったと記憶している。①いつからこのように*拡大解釈されるようになったのかは不明だ。劣等感を抱えている自分、挑戦したけど失敗した自分、それも含めてまず自分を受け入れよう認めようということだ。なので、Ⅱ自己肯定感が高めるとか低めるといったたぐいの感覚ではないのだと思う。

それよりも、僕が大事にしているのは、「自己効力感」という感覚だ。これは、自分が何かをしたということがしつかりと周りに影響を及ぼしているという実感のことだ。自分の提案したアイデアが採用された、賞をとったというのも大事だけど、ずっとやろうと思っていたお皿洗いをやったとか、TODORIST(しなければならぬことリスト)が一つ減ったとかでも目に見える効力感だと思う。そしてそれはなにも他人に肯定される必要はない。

これは、子育てや教育においても重要な視点ではないだろうか。たとえば、いろいろなことを自分自身でやってしまった方が絶対早く済む。だけど、それをあえて子どもや後輩にやってみよう。その結果の良し悪しは問わない。やってくれたことに対して感謝を伝える。とても当たり前のごとくのように思えるけど、実践するのは難しいかもしれない。人の心や行動をどうにかしようと思うのは大変なことだけど、少なくとも自分の力で制御できるはずのことが、ちゃんと自分の意図した通りになるという実感を積み重ねていくのは、*精神衛生上も重要なことだと思う。

人間関係を*円滑に進める*秘訣は、相手の自己効力感を満たすことなのかもしれない。自己肯定感を軸にすると、自分は優越感を感じる代わりに、他の人は劣等感を感じてしまうことは避けられない。それが「気に入らない。」とかいった反発やいじめとかにつながる。自分はこのことができる、だから自分すごい。」という自己肯定で終わらずに、「それはいつも支えてくれてるあなたののおかげですよ。」みたいな感じで感謝を伝えることで、相手の自己効力感も同時に満たせるように心がければ、円滑に人間関係を進められるのではないだろうか。

(毛内括弧『「気の持ちよう」の脳科学』による 出題のため一部改編)

- *業績 ……仕事・事業・研究上の成果。
- *優越感 ……自分が他よりすぐれた存在であるという気持ち。
- *劣等感 ……自分が、なんらかの点で他人より劣っているという気持ち。
- *強迫観念 ……打ち消しても浮かんでくる、不安な気持ち。
- *ネガティブ ……消極的。否定的。
- *拡大解釈 ……言葉や文章の意味をひろげ、理解すること。
- *精神衛生 ……やすらかな心の状態を保つこと。
- *円滑 ……なめらかで、ひっかかることがないこと。
- *秘訣 ……何か物事をやりとげる上での、特別にいい方法。

問一 —— 線部④、⑤のひらがなを漢字に直して書きなさい。
なお —— 線部④の送り仮名は解答用紙に記しています。

問二 空らんⅠ、Ⅱにあてはまる言葉の組み合わせを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

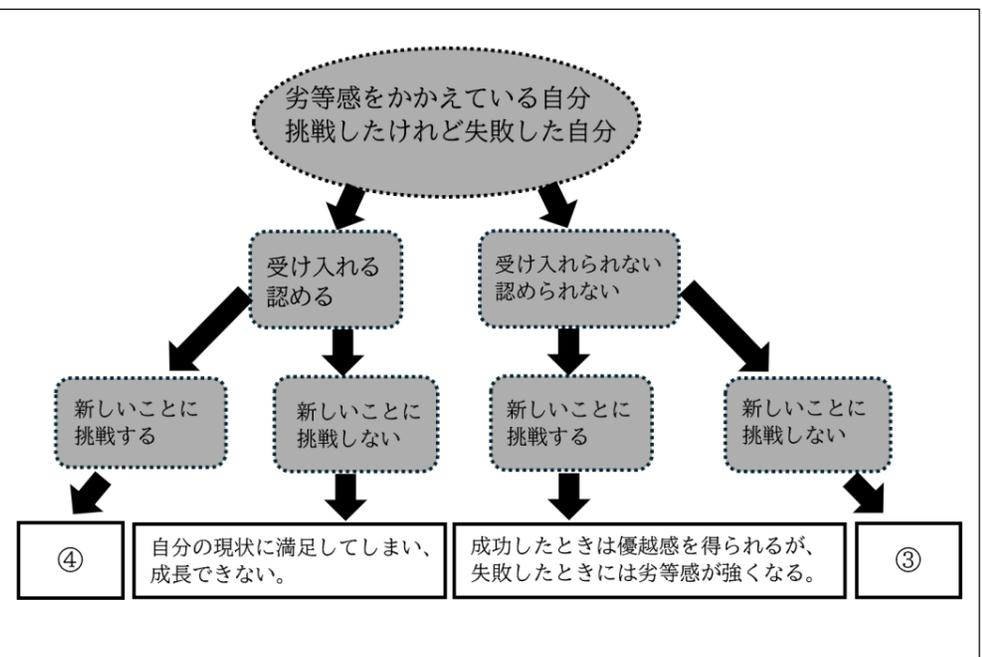
ア	Ⅰ	Ⅱ	また	Ⅱ	だから
イ	Ⅰ	Ⅱ	しかし	Ⅱ	そもそも
ウ	Ⅰ	Ⅱ	つまり	Ⅱ	つとめて
エ	Ⅰ	Ⅱ	また	Ⅱ	つとめて
オ	Ⅰ	Ⅱ	しかし	Ⅱ	だから
カ	Ⅰ	Ⅱ	つまり	Ⅱ	そもそも

問三 —— 線部①「いつからこのように拡大解釈されるようになったのかは不明だ」とありますが、自己肯定感についてどのような解釈がされていると筆者は述べていますか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 本来の自己肯定感とは、自分よりも劣っている他者を認めようという感覚であるが、他者をこえて成果を上げることで高まる感覚だと拡大解釈されている。
- イ 本来の自己肯定感とは、どんな自分でも、ありのままを認めようという感覚だが、失敗しても何かに挑戦した自分を受け入れようとする感覚だと拡大解釈されている。
- ウ 本来の自己肯定感とは、過去の自分よりも良い自分になろうという感覚であるが、過去の自分をこえられない自分も大切にしようという感覚だと拡大解釈されている。
- エ 本来の自己肯定感とは、そのままの自分を受け止めようという感覚であるが、他者と比較し優位に立つことで高まる感覚であると拡大解釈されている。

問四 —— 線部②「相手の自己効力感を満たす」とありますが、筆者はどうすることで相手の自己効力感を満たすことができると考えていますか。〳〵〴〵に続くかたちで、四十字以上五十字以内で書きなさい。句読点()、()、()、()、()、()などの記号は、それぞれ字数に数えます。

問五 さくらさんは文章を読んで、「自己肯定感」と「自己効力感」があるかないかによって、人がどのように感じたり、成長したりするかを考え、次のようにまとめました。空らん③、④にあてはまる内容として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。



- ア どんな挑戦もうまくいくので、自分に自信がつくとともに、相手の自己効力感も満たすことができる。
- イ うまくいっても、うまくいかなくても、その結果や自分の状況を受け入れ、成長する。
- ウ 自分の現状と他人の現状を比べることで、より強い優越感を得て、本来の自己肯定感を高められる。
- エ 成長する場を失い、劣等感だけがますます強くなり、自分を受け入れられない。

問六 文章を読んで、「自分は A ができる。それは、 B のおかげだ。」という題名で、次の四つの条件に従って作文しなさい。

- 条件一 題名・作文ともに、筆者の考える「自己効力感」と「円滑な人間関係」のつながりに沿った内容で書きなさい。
- 条件二 A、B にそれぞれ言葉をあてはめ、作文の内容をあらわす題名を書きなさい。
- 条件三 原稿用紙の使い方に従って、百二十字以上百五十字以内で、二段落構成で書きなさい。ただし、原稿用紙内に題名と名前は書かないこと。
- 条件四 第一段落には、題名に関するあなたの経験を書き、第二段落には、第一段落に書いた内容をふまえて、あなたが考えたことを書きなさい。

二 はじめさんとさくらさんは、2024年に開催されたパリオリンピック・パラリンピックを見て感じたことをまとめています。各問いに答えなさい。

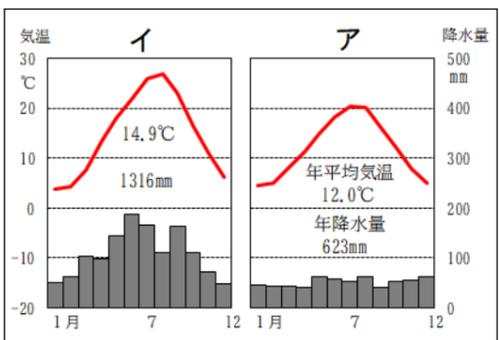
問一 二人はグラフ1を見ながら話しています。会話文を読み、各問いに答えなさい。

はじめ オリンピック・パラリンピックを見ていて、奈良市とパリ市では気候の違いがあるのかを知りたくなったので、それぞれの市の気候をグラフ1にまとめました。奈良市のグラフからは、パリ市と比べると夏と冬の降水量の差が大きいことが読み取れます。

さくら 気候の違いには、南北の違いや地形、風が関係していると言いましたね。

はじめ パリ市の気候には暖流の影響もあるそうです。さくら 日本の周りには、対馬海流と()の暖流が流れているので、その影響についても考えてみたいのです。

【グラフ1】



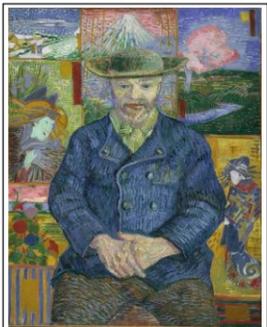
- (一) 奈良市のグラフとして最も適切なものを、グラフ1のA、Iから一つ選び、その記号を書きなさい。
- (二) 会話文中の空らんにあてはまる言葉を書きなさい。

問二 「芸術の都」と呼ばれるパリでは、さまざまな芸術作品を鑑賞することができます。はじめさんは、その中で資料1の作品に興味をもち、調べた内容について、次のようにまとめました。文中の空らんA、Bにあてはまる言葉をそれぞれ三〜六字で書きなさい。

作品名 「タンギー爺さん」
作者 ゴッホ(オランダ)

私がこの作品に興味をもった理由は、背景に日本の浮世絵が描かれているからです。日本からヨーロッパに渡った浮世絵を見たヨーロッパの画家が興味をもち、浮世絵を収集したり、自分の作品に浮世絵の表現方法を取り入れたりしたようです。浮世絵の中には、ヨーロッパに輸出される陶磁器の包み紙として利用されていたものもあったそうです。「浮世絵が包み紙に？」と驚きましたが、江戸時代の中ごろから後半の浮世絵の多くは、(A)の技術を用いて(B)されるようになり、安い値段で売られていたと授業で学んだこととつながり、疑問が解消しました。

【資料1】



問三 パリでは、1900年と1924年にもオリンピックが開催されました。1900年から1924年の間のできごととして正しいものを次のア〜エから二つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 日本が第一次世界大戦に加わり、戦勝国の一つになった。
- イ 日本が国際連盟を脱退し、国際的な孤立を深めた。
- ウ 日本が清との戦争に勝利し、多額の賠償金を得た。
- エ 日本が韓国を併合して朝鮮とし、植民地にした。

問四 新聞記事で表1を見つけたさくらさんは、関連する資料を集めてはじめさんに報告しています。表や会話文の空らんC〜Fにあてはまる言葉を書きなさい。

さくら 表1は、2024年に開催されたオリンピックでの世界各国のメダル獲得数の上位8か国です。ユーラシア大陸に位置する国が多いように思います。

はじめ 国のない南極大陸を除くと、メダル獲得数上位8か国の中には、(C)大陸、(D)大陸に位置する国はありません。

さくら 国がどの大陸に位置するか他に、メダル獲得数に影響をあたえるものがあるのか、興味をもったので資料を集めてみました。

表2は、世界各国の(E)の上位8か国です。表1の国との重なりは3か国です。

表3は、世界各国の人口の多い国の上位8か国です。表1の国との重なりは5か国です。アメリカと(F)は全ての表で上位に入っています。

はじめ 日本やイギリス、フランスは表2、表3には入っていませんが、GDPの高い国では上位に入っています。さくら こうして考えてみると、国の経済力がメダル獲得数に大きな影響を与えていると言えるのかもしれない。

* GDP … 国内の経済活動を量的にはかる指標の一つ。

問五 2028年に開催されるオリンピック・パラリンピックを現地地観戦したいと考えたはじめさんは、旅行計画を立てた後に次のように発表しました。文中の空らんにあてはまる言葉を書きなさい。

私は、次のオリンピック・パラリンピックの開催地であるアメリカのロサンゼルスまでの日本からの飛行機での移動時間について調べてみました。すると、太平洋を横断する、行きと帰りの便では所要時間が異なることがわかりました。不思議に思っ調べてみると、風の影響が一因だということがわかりました。航路では、風が西から東に吹いていて、向かい風になる()の便の方が所要時間が長くなるということでした。

【表4】 GDPの高い国の上位8か国

	国
1	アメリカ
2	(F)
3	日本
4	ドイツ
5	インド
6	イギリス
7	フランス
8	ロシア

(2022年)

【表3】人口の多い国の上位8か国

	国
1	(F)
2	インド
3	アメリカ
4	インドネシア
5	パキスタン
6	ブラジル
7	ナイジェリア
8	バングラデシュ

(2022年)

【表2】 (E)の上位8か国

	国
1	ロシア
2	カナダ
3	アメリカ
4	(F)
5	ブラジル
6	オーストラリア
7	インド
8	アルゼンチン

(2022年)

【表1】メダル獲得数上位8か国

	国	メダル数
1	アメリカ	126
2	(F)	91
3	イギリス	65
4	フランス	64
5	オーストラリア	53
6	日本	45
7	イタリア	40
8	オランダ	34

三 はじめさんは、「地域」の特ちょうについて考えるために、次の文章を読みました。各問いに答えなさい。問題作成の都合上、段落に番号をつけています。

1 私たち人間は生き物である。生き物を統治するのは大変難しく、扱いを間違えると死んでしまい、再生することさえできなくなる。大変*デリケートなものだ。

2 生き物の統治が難しいというのは①「こういうことでもある。生き物にはみな意志があり、主体がある。生命は機械とは違う。スイッチを入れれば*プログラム通りに振る舞う」といったものではない。近代国家は、この生き物としての人間を統制する高度な技術を確立しはじめており、それが重大な政治・権力の問題につながりつつあると*フーコーは指摘するのだが、ここではこの問題を次のように考えて日本の実情を順に理解していきたい。

3 すなわち、そうした生きた主体が僕ら一人一人であるのはいうまでもないことだが、とともに日本の実情を考えた場合、今見たように、僕らが必ず所属する地域もまた生命の単位なのだということである。

4 自然村や町内社会は、制度化された地方自治体としての市町村とは別に自ら現れ、自らの意志で動く主体である。市町村もまたこうした小さな地域を束ね、住民の意志を選挙やその他の機構を経ながら確認し、作動する主体である。その市町村を束ねる都道府県もまた同じであり、これらはすべてそれぞれに生き物なのである。そして、こうした何層もの生きた地域を束ねて、国家というものが成り立っている。

5 このように社会を生命として考える発想を「社会有機体説」という。二〇〇年ほど前に、*社会学を生み出した*オーギュスト・コントが唱えた説で、社会学の考え方のきほんになっている。

6 さらにフランスの社会学者、*エミール・デュルケムは、こうした社会有機体が、近代化の中で「機械的連帯」から「有機的連帯」へと移行しつつあると主張した。「機械的／有機的」の語感が微妙でややこしいのだが、同質的な要素が集合意識によって結合している連帯から、異質な要素が分業を通じて結合する連帯に変わっていくこと、それが③「近代化」と呼ばれている事態なのだということであった。

7 さてこの時、有機体を構成する要素は、デュルケムの議論では「個人」ないしは組織や集団なのだが、これを「地域」に置き換えてみれば、日本の事情を次のように説明することができる。

8 社会有機体は、かつては互いに同質で所属意識を共有する諸地域から成り立っていた。村、町、城下町、藩は、どれも似たような形態をもち、同じような論理でできていた。それが④「明治期以降、村々は農村、山村、漁村など様々に専業化し、また町も工鉱業や林業、港湾や軍事を担うものから、政治行政の*中核を担う首都や京都、あるいはまた巨大な住宅団地までもが現れるようになった。地域は互いに異なる役割を担い、分業によって強く結合する社会へと転換を遂げてきた。」

(山下祐介『地域学をはじめよう』による 出題のため一部改編)

- *デリケート……………かぼそく、せん細なこと。
- *プログラム……………順序、内容、予定。
- *フーコー……………フランスの学者。
- *社会学……………社会の実態や現象を解き明かす学問。
- *オーギュスト・コント……………フランスの学者。
- *エミール・デュルケム……………フランスの学者。
- *中核……………物事を中心となる重要な部分。

問一 —— 線部①「こういうこと」とは、どういうことを指しますか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 生き物である人間は機械と同じように主体があり、常に一定の行動をとることができること。
- イ 人間を統治すればするほど、生き物として再生できなくなってしまうということ。
- ウ 機械と異なり、生き物は意志を有しているため、それぞれの意志にもとづいて活動すること。
- エ フーコーによって、近代以前に人間を統制する高度な技術が生み出されたこと。

問二 はじめさんは4段落の内容を左の図のようにまとめ、発表しました。図中の空らんAにあてはまる言葉を本文から漢字二文字で抜き出さない。また、空らんBにはあてはまる言葉を三文字以内で書きなさい。

【図】

【発表の内容】

上の図は、4段落に記された地域の階層性についてまとめたものです。選挙によって選ばれた人でつくられる（B）は、文章の中に出てくる「その他の機構」にあてはまるのではないかと考えました。国会も、（B）の一つです。

問三 —— 線部②の「有機的連帯」を言いかえた言葉を十八字でぬき出さない。

問四 —— 線部③「近代化」とあるが、日本の場合、明治維新にともなう政治・経済・社会などの変化を近代化と指すことがある。明治時代に起こったできごと①の説明として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 一定の年れいに達したすべての子どもに教育を受けさせるための制度が整えられ、全国に小学校がつくられた。
- イ 25才以上のすべての男性が選挙権をもつことになり普通選挙が行われた。
- ウ 国民主権を特ちょうとするドイツの憲法をモデルとした日本国憲法が公布された。
- エ 関東大震災が発生し、大きな被害を受けた関東地方では、復興に向けた取り組みが行われた。

問五 —— 線部④を読んで、はじめさんは明治期以降の産業と「地域」の特ちょうについて調べ、まとめました。空らんC・Dにあてはまる言葉をそれぞれ書きなさい。

九州地方の石炭や中国からの鉄鉱石の調達に便利だったため、日清戦争後には福岡県北部に官営（C）が設立されるなど、各地域で特色のある産業が確立されていきました。しかし産業が発展した地域の中には、（D）のよ（これなどの公害になやまされるところもありました。